



株式会社浅沼組

2023年3月期第2四半期決算説明会

2022年11月16日

イベント概要

[企業名]	株式会社浅沼組
[企業 ID]	1852
[イベント言語]	JPN
[イベント種類]	決算説明会
[イベント名]	2023 年 3 月期第 2 四半期決算説明会
[決算期]	2022 年度 第 2 四半期
[日程]	2022 年 11 月 16 日
[ページ数]	21
[時間]	11:00 – 11:27 (合計：27 分、登壇：23 分、質疑応答：4 分)
[開催場所]	103-0026 東京都中央区日本橋兜町 3-3 兜町平和ビル 3 階 第 3 セミナールーム (日本証券アナリスト協会主催)
[会場面積]	145 m ²
[出席人数]	5 名
[登壇者]	4 名 代表取締役 社長執行役員 浅沼 誠 (以下、浅沼) 代表取締役 専務執行役員 社長室長 山腰 守夫 (以下、山腰)

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



常務執行役員 技術研究所所長
執行役員 社長室次長

石原 誠一郎（以下、石原）
八木 良道（以下、八木）

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



登壇

司会：それでは、定刻でございますので、ただ今から、株式会社浅沼組様の2023年3月期第2四半期決算説明会を開催いたします。最初に、会社様からお迎えしてございます4名の方々をご紹介申し上げます。まず、代表取締役、社長執行役員の浅沼誠様でございます。

浅沼：浅沼です。よろしくお願いいたします。

司会：続きまして、代表取締役、専務執行役員、社長室長の山腰守夫様でございます。

山腰：山腰です。よろしくお願いいたします。

司会：続きまして、常務執行役員、技術研究所所長の石原誠一郎様でございます。

石原：石原です。よろしくお願いいたします。

司会：続きまして、執行役員、社長室次長の八木良道様でございます。

八木：八木です。よろしくお願いいたします。

司会：本日はこのあと、社長の浅沼様からご説明をいただきます。ご説明終了後に質疑応答の時間を設けておりますので、よろしくお願いいたします。それでは、早速、よろしくどうぞお願いします。

浅沼：ただ今ご紹介をいただきました、社長の浅沼誠です。どうぞよろしくお願いいたします。本日は、当社の説明会にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。新型コロナウイルス感染症拡大の防止の観点からポイントのみの説明といたしますので、ご理解のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

説明に入る前にお詫びしなければならないことがございます。去る8月16日に千葉県市川市発注の工事の入札に関し、公契約関係競売入札妨害罪で当社の従業員が千葉地方検察庁から起訴されました。現在地方自治体等から指名停止処分を受けている状況です。このような事態となりましたことは誠に遺憾であり、株主の皆様、お取引先様をはじめとした関係者の皆様には、多大なご心配とご迷惑をおかけしておりますことを深くお詫び申し上げます。

既に当該従業員の懲戒と取締役の報酬減額処分は実施しましたが、10月20日発表のとおり、コンプライアンスのさらなる徹底に取り組み、信頼回復に努めてまいります。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



本日は、2023年3月期第2四半期の実績と進捗、受注の状況、中期3カ年計画の進捗についてご説明いたします。

2023年3月期 連結 第2四半期 前期比・計画比

(単位：億円)

主な経営指標	2022/3期	2023/3期			
	2Q実績	2Q計画	2Q実績	前期比	計画比
受注高	590	—	683	93	—
完成工事高	592	636	656	64	20
完成工事粗利益	55.8	56.4	63.8	8.0	7.4
完成工事粗利益率	9.4%	8.9%	9.7%	0.3P	0.9P
営業利益	15.1	12.5	21.7	6.5	9.2
親会社株主に帰属する 四半期純利益	9.6	12.0	21.4	11.8	9.4

3

3ページをご覧ください。第2四半期の実績の前期比と、計画比についてご説明いたします。ご覧の表は、左から前期の第2四半期の実績、今期の第2四半期の計画と実績、次に、前期比、計画比を掲載しています。

受注は民間工事の受注が増加したこと、海外子会社の受注が寄与し、前期比93億円増の683億円となりました。完成工事高は、工事の進捗が順調だったことと海外子会社の完工高が寄与し、前期比64億円、計画比20億円増加し、656億円。完成工事粗利益は、完成工事高の増加と追加工事の決定による粗利益率の押し上げがあり、前期比8億円、計画比7億4,000万円増加し、63億8,000万円となりました。

営業利益は、前期比6億5,000万円増、計画比9億2,000万円増の21億7,000万円。四半期純利益は、為替差益と資産の売却益もあり、前期比11億8,000万円増、計画比9億4,000万円増の21億4,000万円となりました。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



2023年3月期 連結 第2四半期 進捗



(単位：億円)

主な経営指標	2022/3期			2023/3期		
	2Q実績	実績	進捗率	2Q実績	計画	進捗率
受注高	590	1,366	43.2%	683	1,416	48.2%
完成工事高	592	1,344	44.0%	656	1,433	45.8%
完成工事粗利益	55.8	131.4	42.5%	63.8	143.4	44.5%
完成工事粗利益率	9.4%	9.8%	—	9.7%	10.0%	—
営業利益	15.1	48.4	31.3%	21.7	56.1	38.6%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	9.6	37.5	25.5%	21.4	41.2	51.8%
配当 (配当性向)	—	363円 (78.1%)	—	—	*191円 (74.8%)	—

* 当社は、2022年8月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っており、2023年3月期の1株当たりの配当予想については、当該株式分割後の金額を記載しております。

4

4 ページをご覧ください。第2四半期の実績の、通期計画に対する進捗についてご説明いたします。

この表は、左から前期の第2四半期と通期の実績、そして通期実績に対する第2四半期実績の進捗率を掲載しています。次に、今期の第2四半期の実績および通期の計画、そして通期計画に対する第2四半期実績の進捗率を掲載しています。

ご覧のとおり、今期の第2四半期の進捗率は40%から50%で推移しており、現段階で通期計画は達成できる見込みで、配当計画も変更ありません。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



2023年3月期 第2四半期 受注状況



(単位：億円)

		2022/3期	2023/3期	
		2Q実績	2Q実績	前期比
浅沼組	建築	505	523	18
	官庁	115	90	△25
	民間	390	433	42
	土木	78	109	31
	官庁	65	65	△0
	民間	13	44	31
	建土計	584	632	49
	官庁	180	155	△25
	民間	403	477	74
海外子会社 計		7	51	44
連結		590	683	93

5

5ページをご覧ください。第2四半期における受注状況について、ご説明いたします。表は、左から前期の第2四半期の実績、次に今期の実績と前期比を掲載しています。

官庁工事の実績としては第2四半期前期比で減少の結果となりましたが、民間工事の受注増によりカバーできたと考えています。また、海外子会社の受注も堅調に推移しております。なお、第2四半期の実績および現在の受注案件の積み上げ状況から、指名停止の影響は大きくないと考えています。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



— 基本方針 — 浅沼組らしさ(独自性)を深耕させ「変化に挑戦」

外部環境変化 への挑戦	★ 長期的に縮小する国内建設投資とインフラ・建築構造物の老朽化により 堅調に推移する国内維持・修繕事業投資
	1. 『ReQuality』リニューアルブランド戦略の推進 2. リニューアル技術の高度化 3. ASEAN地域におけるリニューアル強化
	★ 建設分野における生産労働人口の減少
	1. 協力会社との協働推進 2. DX推進
	★ 非財務経営活動(ESG・SDGsなど)による企業評価向上の機運
	1. エコフレンドリーASANUMA21の推進 2. サステナビリティの推進

6

6ページをご覧ください。中期3ヵ年計画の主な施策についてご説明いたします。

独自性を深耕させ、外部環境の「変化に挑戦」を基本方針として活動しており、表にありますように、三つの外部環境の変化に対し、リニューアルの強化や協力会社との協働推進等、様々な施策に取り組んでおります。

それでは次のページより、各施策の進捗についてご説明いたします。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

目標

2024年3月期に建築リニューアルの営業利益を連結営業利益の35%に

建築リニューアル 計

(単位：億円)

	2022/3期	2023/3期	
	2Q実績	2Q実績	前期比
営業利益シェア	32.2%	28.5%	△3.7P

国内 建築リニューアル

受注高	98	108	10
完成工事高	78	67	△11
営業利益	4.8	1.9	△2.8
営業利益シェア	31.7%	9.0%	△22.7P

ASEAN 建築リニューアル

受注高	7	51	44
完成工事高	8	42	33
営業利益	0.1	4.2	4.1
営業利益シェア	0.6%	19.5%	19.0P

7

7 ページをご覧ください。建築リニューアルの現況についてご説明いたします。

この表は前期と今期の第 2 四半期実績と前期比を掲載しています。当社は建築リニューアルの連結営業利益のシェアを、2024 年 3 月期に 35%以上にする目標を立てています。国内リニューアルは、受注は前期比 10 億円増となりましたが、未着工工事が多かったこともあり、売上高、利益とも前期比で減少し、ASEAN リニューアルと合わせても営業利益率のシェアは 28.5%にとどまっています。

次に申し上げます『ReQuality』と、リニューアル技術の提案による国内リニューアルの強化により、目標を達成したいと考えております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com

名古屋支店改修PJ

心身の健康に配慮した空間デザイン

建物の利用者の健康や快適性を評価する「WELL認証ゴールド」を取得
(築30年のオフィス全体の改修での認証取得は日本初)



循環型の環境配慮ビルとして長期的な視点をもったデザイン

グッドデザイン・ベスト100に選出
(主催：公益財団法人日本デザイン振興会)



8

8ページをご覧ください。『ReQuality』の推進、名古屋支店の改修プロジェクトについてご説明いたします。

昨年立ち上げたリニューアルブランド、『ReQuality』は“人間にも地球にもより良い循環”をコンセプトとしており、当社の独自技術の活用やICTを駆使しつつ、職場や生活住環境にとってよりよい空間の創出を目指し、様々な提案の強化を図っております。

昨年行いました名古屋支店の改修では、健康、快適性を基準に建物を評価するWELL認証のゴールドランクを今年の7月に取得いたしました。築30年以上経過したビル全体のリニューアルで、この認証を受けるのは日本初となります。

また、この改修工事はグッドデザイン賞のベスト100に選ばれました。審査委員からは、「循環型の環境配慮ビルとして、長期的な視点を持って実践可能なプロセスまでが緻密にデザインされていること、また、循環フローを建築物で体現するというアプローチも先進的な試みであり、高く評価した。」とのコメントをいただきました。

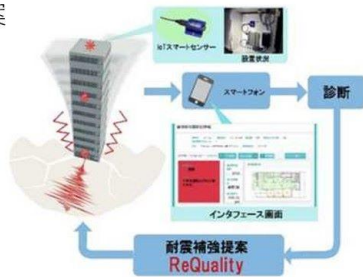
サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

耐震補強提案

○地震モニタリングシステム

- ・地震時の建物の揺れを即時に分析・診断
- ・クラウドシステムを活用しいつでもどこからでも建物の診断結果にアクセス可能
- ・地震発生後の建物について耐震調査・工事の必要可否を判断し必要場合は耐震補強を提案



IoTスマートセンサー

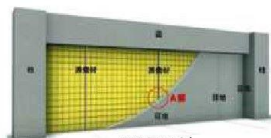


地震の揺れを分析し、通知

長寿命化による低炭素化へ

○長寿命化のための技術力

- ・コンクリートのひび割れを制御（目地へ誘発）し、壁面や床面にひび割れを起こさずきれいな状態を保存でき、長寿命化に寄与（CCB工法）



CCB工法



床CCB工法

- ・CCB工法を適用した壁面の目地にひび割れを分散させる材料（PRS）を充填し、壁面に貼った壁紙へのしわを最小化

PRS 目地充填工法



PRS目地



PRS 目地充填材

次に、9 ページをご覧ください。リニューアル技術の高度化ですが、耐震技術の拡充と、建物の長寿命化についてご説明いたします。

左に掲載していますのは、地震モニタリングシステムで、建物に取り付けたセンサーにより地震発生直後の建物の状況を自動診断し、入居者だけでなくビル管理者らにその診断データを送信するシステムです。

右に掲載しています CCB 工法や PRS 目地充填工法は打設したコンクリートに将来発生するひび割れを制御することによって余分な補修工事等を減らすことができ、建物の長寿命化や修繕費のコストダウンを図ることができる技術です。

当社が代表を務めているこの CCB 工法協会の会員企業においては、既に合わせて 260 件以上の実績があり、当社が注力しています物流倉庫や工場といった工事においても、長寿命化の効果が認められており、技術採用による受注拡大を目指しております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

(単位：億円)

海外子会社の現況					
シンガポール					
名 称	取得	事業内容	2023/3期 2Q実績		
			受注	完工高	営業利益
SINGAPORE PAINTS & CONTRACTOR PTE. LTD.	2018年10月	建物塗装・修繕工事	21	14	0.1
EVERGREEN ENGINEERING & CONSTRUCTION PTE. LTD	2022年1月	建物メンテナンス 電気・設備工事	30	28	4.1

10

10 ページをご覧ください。ASEAN における、建築リニューアルの現況についてご説明いたします。

表の下段に掲載しています今年 1 月に子会社化した EVERGREEN は、今期から業績を連結に反映しており、受注、売上、利益に寄与しています。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

建設キャリアアップシステム (CCUS) の推進	○建設業の魅力向上に向けて、建設技能者の処遇改善、キャリアパスの明確化、施工能力の見える化を目的としたシステム ・サポート事務局設置期間延長 2021年10月1日～2023年3月31日 ・オンライン説明会実施済み（2021年9月から12月に6回）
浅沼マイスターの推進	・協力会社の職長の中から浅沼マイスターとして選任 ・奨励金の授与を行い賃金面からの処遇を改善 ・対象要件としてCCUSへの登録を次年度認定更新より追加
協力会社との研修	○協力会社で構成する弥生会の会員の技術者を対象に研修会を実施 ・サステナビリティ基本方針、人権方針、調達方針の説明 ・VRや安全帯による安全研修
作業所生産性向上策表彰及び発表会開催	○各作業所における協力会社との協働による生産性向上策を募集表彰、発表会を開催（第4回を2022年10月28日実施） （コスト削減、工期短縮、新技術導入など69編）

11 ページをご覧ください。協力会社との協働推進についてご説明いたします。

昨今、作業員の高齢化に伴う人手不足が喫緊の課題となっており、課題解決に向け協力会社と取り組んでいます主なものについてご説明いたします。

まず、建設業界全体で推進しています建設キャリアアップシステムを各作業所で導入し、協力会社、建設技能者への登録の推進やサポートを行っています。これは建設技能者の処遇改善を目的としたシステムであり、引き続き推進してまいります。

次に、浅沼マイスターという制度ですが、作業所で長年、活躍していただいている職長の中から実績や貢献度、人格などが特に優れている方を浅沼マイスターとして選任し、奨励金を授与する制度です。2022年3月末現在で218名の方が選任されています。

そして、コロナ禍で中止していましたが、協力会社で構成する弥生会のメンバーへの研修会も再開いたしました。

最後に、各作業所における協力会社との協働による生産性向上策の表彰制度ですが、今年で4回目を迎え、本年の応募総数は69編となりました。当社といたしまして、協力会社との協働は最重要課題であり、これからもさらに充実させていきたいと考えております。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

DX 推進委員会の取り組み

① BIM・CIM関連の導入推進

- ・ 導入拡大に向け社員の研修
- ・ 導入対象案件を拡大するための方策の検討
- ・ 設計段階だけでなく施工時における活用拡大に向けた方策検討



3Dスキャナによる既設空間測量

② タブレットを使用した効率化

- ・ 工事写真の整理、一元管理
- ・ 配筋の検査
- ・ 仕上げの検査



タブレットを利用した配筋検査

③ 他社との共同開発

- ・ 建設RXコンソーシアム：ロボット、パワースーツなど
- ・ 共研21：配筋検査

④ 業務の電子化

- ・ 契約書、注文書、請求書などの電子化：CI-NETの導入拡大へ
- ・ 建退協の事務手続きの電子化：CCUSとの連携拡大へ

12 ページをご覧ください。業務の効率化や生産性の向上に欠かせない、DX 推進についてご説明いたします。

当社では、DX 推進委員会を設置し様々な課題を検討しております。

主なものでは一つ目として、BIM や CIM の導入推進では社員の利用を促す研修、受注活動への活用、また、設計段階だけではなく、施工段階への活用拡大に向け取り組んでいます。

二つ目として、タブレットを使用した業務の効率化では、煩雑な工事写真の整理、配筋や仕上げの検査の効率化について日々、検証しております。

三つ目として、他社との共同開発では、ロボットなどの活用に向け、様々なプロジェクトに参加しています。

四つ目として、業務の電子化では、社内業務、社外との取引における契約書、注文書、請求書などのさらなる電子化の拡大に向けて引き続き取り組んでまいります。

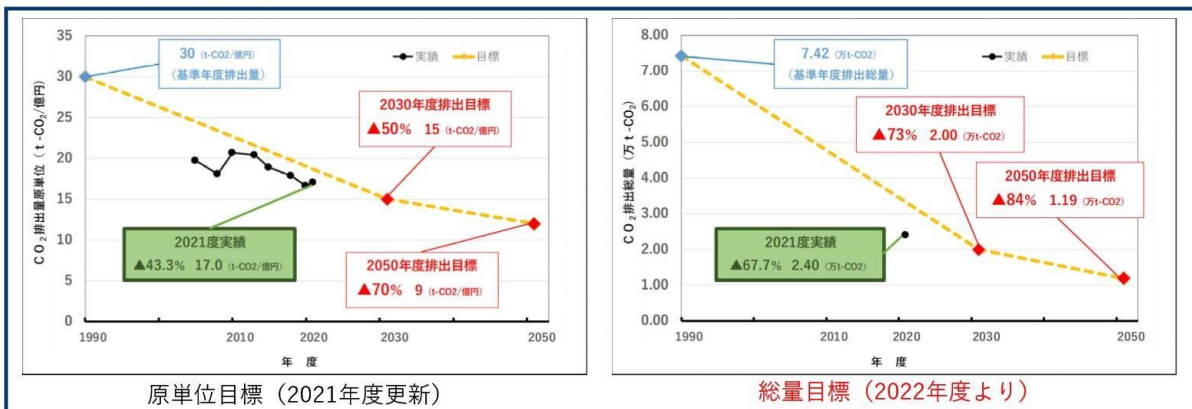
サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

長期CO₂削減目標（スコープ1+2）

- 施工高1億円当たりのCO₂排出量を1990年度比で2030年度までに50%、2050年度までに70%削減（原単位目標）
- CO₂総排出量を1990年度比で2030年度までに73%、2050年度までに84%削減（総量目標）

CO₂削減の推移



スコープ3について

- ・算定方法を検討中、今後削減目標の設定の検討に入る予定。
- ・スコープ3目標設定後にスコープ1+2の目標を再設定予定。

13 ページをご覧ください。脱炭素に向けた取り組みについて、ご説明いたします。

脱炭素の取り組みとしては、前年度に長期 CO₂削減目標を「施工高1億円当たりの CO₂ 排出量を1990年度比で2030年度までに50%、2050年度までに70%削減」と設定しておりました。この目標は原単位での削減目標であり、昨今の総排出量による削減目標設定の要請に応え、今年度より「CO₂総排出量を1990年度比で2030年度までに73%、2050年度までに84%削減」を加えました。

2021年度における原単位での実績は17トン、43.3%削減、総量では2.4万トン、67.7%削減となりました。なお、以上はスコープ1とスコープ2を対象とした目標ですが、スコープ3の目標ができ次第、目標の見直しを行います。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

作業所における様々な取り組み

CO2削減

取り組み①

CO2削減率50%の環境配慮型コンクリートを施工に導入



取り組み②

再生可能エネルギー100%の電力を新規着工作業所全てに導入へ



生物多様性の保全

設計施工案件の作業所全てでCASBEE（建築環境総合評価システム）による評価を取り入れ、Aランク評価を50%以上の作業所で獲得を目指す



取組例



生物多様性簡易評価ツール「いきものプラス」を採用し、作業所に隣接する恩知川や緑地等の植樹の選定などを行い、さまざまな環境保全対策に対応

14 ページをご覧ください。脱炭素の取り組みの中で、作業所における取り組みの一部をご紹介します。

CO₂削減の取り組みとして、左上の写真は当社開発の技術である「CO₂の排出量を普通コンクリートに対して50%削減した低炭素系の環境配慮型コンクリート」を工事に採用し、施工している状況です。

左下の図は、昨年より一部の作業所で導入を始めました「再生可能エネルギー100%電力」の導入の概略図です。今年度からは、新規着工する全ての作業所に導入することにいたしました。このエネルギーは、事業活動に必要なエネルギーの100%再生可能エネルギーを使用することを目指しているRE100プロジェクトの承認を受けております。

続いて、右に掲載しています生物多様性の保全活動についてご説明いたします。当社は設計施工の作業書において、CASBEE（建築環境総合評価システム）による評価を取り入れ、対象作業所において、Aランク評価を50%以上獲得できるように取り組んでおります。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

右下の写真は、その取り組みの一つで、大阪の八尾市で施工した作業所周辺は野鳥が多く見られるところで、中でも絶滅危惧種のハヤブサの営巣域と重なることから、開発したシステムで植樹の選定を行い、周辺地域および敷地内の緑地確保など環境の保全に努めました。

今後も積極的に環境に配慮し、環境とのより良い循環を目指していきたいと考えております。

サステナビリティの推進



○「サステナビリティ推進委員会」の主な取り組み	
① 環境経営推進に向けた取り組み	
環境経営推進に向け、ワーキンググループを設置し技術面から検討 技術発表会での「環境技術賞」創設	
② TCFD（気候関連財務情報開示タスクフォース）関連活動の推進	
気候変動関連の中長期的目標 原単位目標に総量目標を追加（次ページ詳細）	
③ 人権方針、調達方針策定	
サステナビリティ基本方針に加え、人権方針、調達方針を策定し、HPに開示	
④ パートナーシップ構築宣言	
取引先や価値創造を図る事業者との連携・共存共栄を進め、 新たなパートナーシップを構築することを、 「発注者」側の立場から宣言するもの。	
⑤ その他の検討課題	
サステナビリティ経営における「KPI」設定と、中核人材や多様性の確保、 人材育成方針や人権に配慮した施策の策定に向けた検討	

15

15 ページをご覧ください。サステナビリティの推進について、サステナビリティ推進委員会の主な取り組みをご説明いたします。

昨年 11 月にサステナビリティ推進委員会を設置し、同委員会では、環境経営推進に向けた取り組み、TCFD 関連活動の推進を行っております。

人権方針、調達方針を策定しホームページに開示、社員をはじめ協力会社にも取り組みの徹底をお願いいたしました。また、経団連や関係省庁などが進める「未来を拓くパートナーシップ構築推進会議」において、サプライチェーンの取引先や価値創造を図る事業者との連携・共存共栄を進め、新たなパートナーシップの構築を目指す趣旨に賛同し、パートナーシップ構築宣言を行いました。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

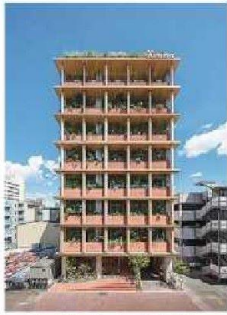


その他の取り組みといたしましては、サステナビリティ経営における KPI 設定、中核人材や多様性の確保、人材育成方針の策定、人権に配慮した施策の策定を進めております。

Topics



ReQuality関連



改修後の名古屋支店外観

グッドデザイン賞を受賞
 浅沼組の名古屋支店改修PJ
 浅沼組の名古屋支店改修PJ（プロジェクト）が、日本デザイン振興会（JDA）主催の2022年度グッドデザイン賞（ベスト10）に選出された。

築30年の名古屋支店を環境配慮型ビルへリニューアルした。既存躯体を活用し、自然の光、風へのアクセシビリティを高める変更を行うとともに、土や木などの自然素材を最大限活用している。

審査評価では、循環型の環境配慮ビルとして、長期的な視点を持って、実践可能なアプローチまで緻密にデザインされていることなどが高く評価された。

2022/10/17 日刊建設工業新聞

WELL認証 ゴールド取得



浅沼組の名古屋支店改修プロジェクトが米国の健康建築性能評価制度「WELL Building Standard（WELL認証）」のゴールドランクを取得したと発表した。築30年以上経過したオフィスビルの全体改修で同ランクを獲得した事例は国内初という。

WELL認証は人間の健康と幸福を高めるための環境評価システムで、「空気」「水」「光」「音」「材料」「熱快適性」「運動」「温湿環境」の7項目から構成されている。同社は2019年、リニューアル事業「ReQuality」を掲げた。今後は同プロジェクトで得た知見を生かし、健康で快適な空間づくりの実現を提案することとしている。

2022/9/26 日刊建設通信新聞

その他



「変化に挑戦」 体現
 浅沼組は、2020年度の技術発表会を開催し、コロナ禍における変革の取り組みを発表した。浅沼組は、2020年度の技術発表会を開催し、コロナ禍における変革の取り組みを発表した。浅沼組は、2020年度の技術発表会を開催し、コロナ禍における変革の取り組みを発表した。

2022/8/26 日刊建設通信新聞

性能証明を取得 PRS工法適用拡大へ
 浅沼組など14社がPRS研究会を設立し、PRS工法の適用拡大を目指す。PRS研究会は、PRS工法の適用拡大を目指す。PRS研究会は、PRS工法の適用拡大を目指す。

2022/9/2 日刊建設通信新聞

16 ページをご覧ください。こちらで最後になりますが、『ReQuality』関連の記事としましては、先ほどご説明いたしました施策で、名古屋支店改修におけるグッドデザイン賞の受賞と WELL 認証のゴールドランク取得に関しまして、新聞に取り上げていただきました。その他の記事として、技術発表会と、先ほどご説明いたしました PRS 目地充填工法について取り上げていただいた記事の一部を掲載しております。

ご説明は以上となります。ご清聴どうもありがとうございました。

司会：ご説明、ありがとうございました。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
 フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



質疑応答

司会 [M]：それでは、この後は質疑応答の時間でございます。質問のある方、いかがでしょうか。ありがとうございます。どうぞ。

質問者 [Q]：ご説明いただきありがとうございました。2点、質問させてください。1点目は、冒頭で社長からお話がありました公共工事指名停止の影響、軽微というご説明だったのですが、どれぐらいの期間まで影響するものなのか。

2点目は、業界全体の課題として人手不足のお話は、従来からいわれているところで御社の取り組みについてもよく理解できたのですが、それ以外のコスト高、円安、部材高の影響度合い、民需の受注が増えて採算割れになる事態は起こらないのか、その2点を簡単にご説明いただければ幸いです。よろしくお願いします。

話者 [A]：私からお答えします。指名停止の受注に対する影響の期間ではありますが、何件かの指名停止を受けておりますが、いわゆる中央官庁からの指名停止は、大半は既に終わっております。各市町村の指名停止はまだ残っておりますけれど、私どもが、受注の主要対象としている中央官庁の、指名停止は終わっておりますので、先ほど社長から申し上げたように、指名停止による受注への影響はそれほど大きくないと考えております。

実際、これも繰り返しになりますけれど、受注の案件の積み上げ状況を見ても、9月末現在では前年より増えておりますので、特に大きな影響はないのではないかと思います。

それと、人手不足に加えてコスト高のご質問でありますけれど、確かにご案内のように、例えば鉄でいきますと、2年前より80%ぐらい上がっていると思います。1年前からは20%、半年前からは10%程度上がっておると思いますが、ここ1年ほど、そういったコストが上がると、いわゆる発注差損が発生する可能性があるのですが、幸い大きな発注差損はございませんでした。

ここもとは高値で資材は安定して推移しておりますので、これからも大きな発注差損が発生する可能性は前より少ないといえると思います。したがって、いわゆるコスト高による業績への影響も、私どもの場合はそれほど大きくはないのではないかと思います。

以上です。

質問者 [M]：ありがとうございました。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



司会 [M]：ありがとうございました。それでは、質問はないようでございますので、これをもちまして、本日の決算説明会は終了でございます。浅沼様、会社の皆様方、ご説明ありがとうございました。また、ご来場の皆様、本日はご参加ありがとうございました。お忘れ物のないよう十分ご確認の上、お気を付けてお帰りくださいませ。ありがとうございました。

[了]

脚注

1. 音声が不明瞭な箇所に付いては[音声不明瞭]と記載
2. 会話は[Q]は質問、[A]は回答、[M]はそのどちらでもない場合を示す

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com



免責事項

本資料で提供されるコンテンツの信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性等について、当社は一切の瑕疵担保責任及び保証責任を負いません。さらに、利用者が当社から直接又は間接に本サービスに関する情報を得た場合であっても、当社は利用者に対し本規約において規定されている内容を超えて如何なる保証も行わないものとします。

本資料または当社及びデータソース先の商標、商号は、当社との個別の書面契約なしでは、いかなる投資商品（価格、リターン、パフォーマンスが、本サービスに基づいている、または連動している投資商品、例えば金融派生商品、仕組商品、投資信託、投資資産等）の情報配信・取引・販売促進・広告宣伝に関連して使用してはなりません。

本資料を通じて利用者に提供された情報は、投資に関するアドバイスまたは証券売買の勧誘を目的としておりません。本資料を利用した利用者による一切の行為は、すべて会員自身の責任で行っていただきます。かかる利用及び行為の結果についても、利用者自身が責任を負うものとします。

本資料に関連して利用者が被った損害、損失、費用、並びに、本資料の提供の中断、停止、利用不能、変更及び当社による本規約に基づく利用者の情報の削除、利用者の登録の取消し等に関連して会員が被った損害、損失、費用につき、当社及びデータソース先は賠償又は補償する責任を一切負わないものとします。なお、本項における「損害、損失、費用」には、直接的損害及び通常損害のみならず、逸失利益、事業機会の喪失、データの喪失、事業の中断、その他間接的、特別的、派生的若しくは付随的損害の全てを意味します。

本資料に含まれる全ての著作権等の知的財産権は、特に明示された場合を除いて、当社に帰属します。また、本資料において特に明示された場合を除いて、事前の同意なく、これら著作物等の全部又は一部について、複製、送信、表示、実施、配布（有料・無料を問いません）、ライセンスの付与、変更、事後の使用を目的としての保存、その他の使用をすることはできません。

本資料のコンテンツは、当社によって編集されている可能性があります。

サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

